

尿のトラブル

尿のトラブルを考える場合、内容を大きく二つに分けることができます。尿そのものの異常と排尿時の異常の二つです。

尿そのものの異常

代表的なものでは血尿が上げられます。腎臓に始まり尿道の出口までのいわゆる尿路のどこかで尿に血液が混じることです。血液の量が多くなると目で見て判別できるため肉眼的血尿と呼びます。ただその色調はさまざまで、膀胱や尿道からの出血では新鮮な赤色が多く、腎臓から少量ずつ出血する場合には茶褐色に変色していることもあります。

また、排尿時の痛みや腰の痛みを伴うかどうかなども病気によって特徴があり診断の上で参考になります。

一方、尿検査時の試験紙で見つかる血尿を尿潜血陽性あるいは顕微鏡的血尿と

呼びます。出血の量は少ないのですが、腎疾患や尿路の悪性腫瘍が原因のこともあり、肉眼的血尿と同様に検査が必要となります。

排尿時の異常

排尿という行為は、通常一日に数回はあり、ほとんどは意識することなく終わっています。ただ、気になる症状を伴うこともあります。

最近、過活動膀胱という言葉や耳にされることが多いかと思いますが、トイレが近くて困る症状で対応する薬も開発されています。

他方、何よりつらいのは尿意があっても出ない尿閉と言われる病状です。前立腺肥大症で尿道が圧迫されたり、排尿を調整している神経に障がいがある神経因性膀胱などが代表的です。

風邪薬などの薬剤で一時的に膀胱の収縮力が低下することもあります。

いずれにしても尿が出ない状態には、緊急の処置としてカテーテルと言われる管を膀胱に挿入して排尿（導尿）する必要があります。その後原因を調べ、薬による治療や、前立腺切除などの手術で本来の排尿状態に回復することを目指します。

治療が無効の場合には、カテーテルによる導尿を続けることとなりますが、この場合専用のカテーテルを使用し、日に何回か導尿を行う方法が自然の排尿に近く推奨されています。この手技を簡欠導尿といいます。正しい方法を覚えて頂ければご自身で行うことや、在宅でご家族の方が行っても行うことも可能です。



佐伯地区医師会
小林 勲勇

なるほど!! 健康講座

問合せ 廿日市市保健センター ☎⑩1610